

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

本日（6月9日）20時30分から、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象を観測しました。この現象は、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定されます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火山ガスが風下の登山道まで流れてくる可能性がありますので注意して下さい。

○ 活動概況（図1～2）

本日（6月9日）20時30分頃から、大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象を観測しています。この現象は、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定されます。この現象の発生は、昨年8月13日以来で、規模も同程度の微弱なものです。この現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はありませんでした。

62-2火口の噴煙の状況には変化はありません。

- 1) 昨年8月13日夜間からの活動状況は、札幌管区気象台のホームページに掲載しています。
(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

○ 活動評価

十勝岳の地震活動・噴煙活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、2006年頃からみられている62-2火口直下浅部の膨張を示す地殻変動は現在も続いており、しばらくは活動の推移に注意が必要です。



図1 十勝岳 遠望カメラ位置
及び撮影方向（赤矢印）

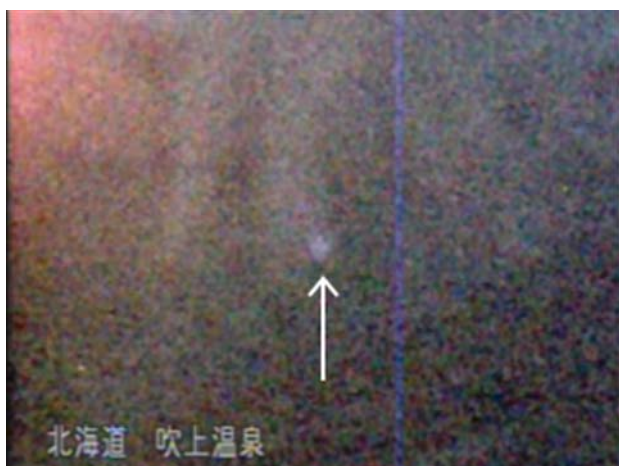


図2※ 十勝岳 大正火口付近が夜間に高感度カメラ
で明るく見える現象の状況
（北海道カメラ、図1①より撮影）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

※資料は気象庁のほか、北海道のデータも利用して作成しています。